

# 平成 29 年度インターンシップ実施報告 — 質の高いキャリア教育を目指して —

The 2017 SIST Internship Program:  
Toward Higher Quality Career Education for students

宮地 竜郎\*1, 鹿内 佳人\*2, 加藤 丈和\*3, 今野 勝幸\*4  
長尾 雄行\*5, 青島 偉夫\*6, 氏原 秀之\*6, 渡邊 慎也\*6

Tatsuro MIYAJI, Yoshihito SHIKANAI, Takekazu KATO, Katsuyuki KONNO,  
Takeyuki NAGAO, Hideo AOSHIMA, Hideyuki Ujihara, Shinya WATANABE

**Abstract:** SIST internship program has been introduced into the curricula of Shizuoka Institute of Science and Technology (SIST) since 1999. This report presents how the program was prepared and organized, and the results of the internship program conducted in 2017. In 2017, a total of 114 companies in Shizuoka and Aichi prefecture engaged in this program, and provided their own internship programs available for 230 students. A total of 102 students participated in these programs. The results of this program were compared with the ones from the past 18 years, and its future prospects are suggested.

## 1. はじめに

本学のインターンシップは、平成 11 年度に試行を行い、平成 12 年度から授業の一貫として単位を付与して実施している。本制度も開始から 18 年を経過し、企業との相互理解も深まってきている。また参加学生数もこの 4 年間は 100 名を超している一方、今年度は若干の低下を示した。しかし、これは自治体や公募によるインターンシップへの参加学生が増加しているためであると考えられる。したがって、学生の参加意識は依然として高止まりしている傾向にあるといえるだろう。このように、本事業は人材育成の手段のひとつとして、本学のキャリア教育の中で重要な位置を占める事業として定着している。

本報告では、平成 29 年夏期に静岡理工科大学において行われたインターンシップに関して、事業計画、受入企業に対する依頼、参加学生の募集、実習内容、参加学生の成績評価、実習結果の総括など、各段階における経過および結果を昨年度までのデータと比較可能な形でまとめられた。それにより、本事業によって得られた成果や問題点を明らかにし、来年度以降の実施に向けた改善に資することを目的としている。

特に、学生および受入企業からの報告書を詳細に分析し、学生がインターンシップにおいてどのような内容の実習を行い、成果として何を得心か、また、企業による学生および実習内容の評価などを検討した。さらに平成 11 年度から平成 29 年度までの 18 年間のインターンシップ実施結果を総括的にまとめ、来年度以降のインターンシップに関する展望についても述べる。

## 2. 平成 29 年度インターンシップの計画

昨年度の申し送りとして、以下の点が挙げられていた。

- ① 本学のキャリア支援教育が学生に浸透してきており、インターンシップへの関心も高まっているが、さらにインターンシップの内容の更なる質の向上が必要であると考えられた。そのため、より一層、受入れ企業との関係を深めつつ、実習受け入れ企業の

実習先としての適正判断を強化し、優良企業でのインターンシップの機会を増やす必要がある。

- ② 実習終了時に教員が回答するアンケートの質問項目に、いくつかの問題が生じているため、修正する必要がある。

平成 29 年度インターンシップは、これらの問題点を改善するため、以下の事業を取り入れた。

- ① 企業側への受入希望調査を一昨年、および昨年同様 4 月に開始した。
- ② 知名度の高い実習受入企業の開拓を促進した。
- ③ 実習受け入れ企業の実習先としての適正判断、および助言教員による実習学生と企業のマッチングの適正判断を強化した。

上記施策により、適切かつ魅力的な実習受け入れ先を開拓することで、本学のインターンシップ事業の質を向上させつつ、学生の積極性の向上と意欲の喚起を図り、より高い教育効果が得られるインターンシップの実施を目指した。

## 3. 受入企業への協力依頼

地域社会との密接な連携を特色とする本学の教育の中にあつて、インターンシップ制度は地域産業との連携による、地域に役立つ人材の育成、地域の企業や地域社会との交流の推進などの観点から重要な役割を負っている。協力依頼企業の選定にあたっては、過去 18 年間の受入依頼の発送状況や、これまでの就職状況などを十分に考慮し、以下の企業を削除する形で依頼状送付企業の選定を行った。

- ・昨年まで依頼状を送付したが返事の全くない企業
- ・インターンシップ不可の返事をいただいた企業

上記条件で選考の結果、インターンシップ受入れの可能性の低い事業所を削除して、4 月に昨年度より少ない 412 社に対してインターンシップ事業の協力依頼を実施した。その結果、平成 29 年度においては、114 事業所・230 名分(昨年度は 116 社 277 名分)の実習テーマ受入申し込みがあった。

2018 年 3 月 3 日受理

\*1 インターンシップ WG リーダー (物質生命科学科), \*2 機械工学科, \*3 電気電子工学科, \*4 情報デザイン学科, \*5 コンピュータシステム学科, \*6 キャリア支援課

表1 実習企業

No	会社名	実習地	実習テーマ	実習期間	日数	受入人数	実習人数
1	株式会社アーティス	浜松市中区	ウェブサイト制作に関する業務を理解する	9/4～9/8	5日間	1	1
2	アート電子株式会社	浜松市北区	プリント基板、パターン設計、部品実装体験	9/4～9/6	3日間	2	2
3	株式会社アイゼン	浜松市南区	高精度・高品質を支える技術力・現場力を肌で感じる	9/4～9/15	5日間	1	1
4	株式会社アクティ森	周智郡森町	接客を通してサービス業を学んでいただきます	8/7～8/20	12日間	3	3
5	天方産業株式会社	浜松市中区	マイコンを使用したソフト作成、サーバーとネットワークについて	8/28～9/8	10日間	4	4
6	磐田市役所	磐田市	市行政事務を学ぶ	8/30～9/9	5日間	2	2
7	磐田信用金庫	磐田市	信用金庫を理解しよう	8/14～8/18	5日間	3	3
8	株式会社エキスパート パワーズオカ	静岡市清水区	3DCADによる設計実務体験	8/21～8/25	5日間	2	1
9	エズカ工業株式会社	磐田市	製造業の事務業務を体験しよう	9/5～9/16	10日間	1	1
10	NSK ワーナー株式会社	袋井市	学生の専攻分野等を考慮し、テーマを選定	8/28～9/1	5日間	3	2
11	榎本工業株式会社	浜松市北区	将来の技術者として「モノづくりの体験」を積んでいただき、職業観を自分のものにしてもらう	8/21～8/9/1	10日間	2	2
12	株式会社遠鉄ストア	浜松市中区	小売業売場体験	8/17～9/21	内5日間	10	5
13	大石建設株式会社	榛原郡吉田町	実践的な知識の習得	9/5～9/16	9日間	2	1
14	株式会社オートベル	沼津市	車の買い取りから販売までの流れを体験	8/18～8/31	10日間	5	1
15	株式会社小楠金属工業所	浜松市西区	精密機能部品の切削加工と生産技術	8/28～9/8	10日間	1	1
16	川崎工業株式会社	菊川市	切削加工設備の設計および製作補助	8/21～9/1	10日間	2	1
17	株式会社 KYOWA エンジニア リング・ラボラトリー	静岡市駿河区	自動車部品のデータ作成、開発業務の体験	8/7～8/11	5日間	4	2
18	クオリテックファーマ 株式会社	掛川市	CMO 企業の仕事について知ろう	8/29～8/31	3日間	1	1
19	株式会社コーリツ	磐田市	生産技術課における各種業務を体験することで、業務内容の理解と就業することの意義を確認する	9/4～9/8	5日間	3	3
20	株式会社コーワメックス	愛知県刈谷市	ソフトウェア、電気電子、機械の職種ごと、設計開発基本的プロセスを試作品の製品設計で体験	9/28～9/8	10日間	2	1
21	株式会社サイダ・UMS	焼津市	簡単なメカ組立から匠の技の体験まで、精密工作機械製造の実体験	8/28～9/8	10日間	3	2
22	株式会社サカエ金型工業	浜松市西区	プラスチック射出成形機、付帯設備の保守作業および管理業務	9/4～9/15	5日間	2	1
23	三栄ハイテックス株式会社	浜松市東区	マイコンボードを使用した音響機器の開発体験	8/28～9/1	5日間	1	1
24	株式会社サンテック	藤枝市	自動化装置の製作過程および基本構成の修得	9/4～9/15	10日間	2	2
25	三明機工株式会社	静岡市清水区	世界トップ水準のロボットシステムメーカーの魅力を感じてください	8/21～8/25	5日間	4	2
26	CDS 株式会社	愛知県岡崎市	相談にて決定	8/21～9/1	10日間	2	1
27	静岡ビルサービス株式会社	袋井市	大学内の設備管理	8/22～8/30	7日間	1	1
28	株式会社システック	浜松市北区	インターンシップの実習を通して「何のために働くか」「働く意味・意義」を考える	9/4～9/15	10日間	2	1
29	株式会社静鉄ストア	菊川市	小売業～商品を売る！！～	9/4～9/8	5日間	2	2
30	島田市役所	島田市	市行政事務体験 相談にて決定	8/21～8/25	5日間	2	3
31	株式会社食鮮館タイヨー	静岡市葵区	接客・商品陳列等	8/4～8/14	10日間	1	1
32	株式会社榛葉鉄工所	掛川市	試作品および量産品のレーザー加工	8/21～9/1	10日間	2	2

33	株式会社親和製作所	湖西市	金属部品加工の工程毎の加工技術を理解する	8/7～8/11	5日間	2	2
34	株式会社スーパーラック	菊川市	スーパーマーケットの本質を見極めよう	8/15～8/25	10日間	2	1
35	鈴与システムテクノロジー株式会社	静岡市清水区	相談にて決定	9/19～9/15	5日間	3	2
36	株式会社スペースクリエイション	浜松市南区	自動車研究開発動向と試験機の機能の理解・把握	8/28～9/8	10日間	2	1
37	大洋紙業株式会社	富士宮市	製紙および加工工程を体験するとともに生産管理および品質管理を学ぶ	8/28～9/8	10日間	2	1
38	高松電機株式会社	浜松市東区	自動制御がどのようなものか、どのようなところで必要とされているのか理解してもらいます	9/4～9/15	10日間	2	1
39	株式会社ティージェイエス	静岡市清水区	業務アプリケーション開発を体験できます	9/4～9/15	10日間	2	2
40	東海サーモエンジニアリング株式会社	浜松市東区	空調設備の設計・冷媒配管加工・フロンガス回収実習、現場見学	9/4～9/8	5日間	2	2
41	株式会社東横イン掛川駅新幹線南口	掛川市	ホテルの顔でもあるフロントでのお客様対応	9/11～9/15	5日間	2	2
42	株式会社ドコモ SC 東海	愛知県名古屋市長古屋市	携帯電話無線基地局の保守点検業務、エリア品質調査業務等	8/28～9/1	5日間	2	2
43	豊橋鉄道株式会社	豊橋市	当社グループへの理解	8/17～8/30	10日間	2	1
44	株式会社ニッパ	浜松市南区	画像処理を使用した最先端検査工程と3DCADを使用したダントツ金型設計を体験しよう！	9/4～9/15	10日間	2	1
45	株式会社ノダ	静岡市清水区	住宅産業における建材メーカーの役割と技術職の果たす役割を考察する	8/28～9/1	5日間	3	1
46	株式会社ハマキョウレックス	袋井市	相談にて決定	9/4～9/8	5日間	3	2
47	浜二ペイント株式会社	浜松市北区	木工用塗料の検査および塗装	8/28～9/1	5日間	2	2
48	藤枝市役所	藤枝市	業務説明と一部実地体験	8/30～9/1	5日間	2	2
49	富士山静岡空港株式会社	牧之原市	相談にて決定	9/11～9/15	5日間	1	1
50	株式会社藤田鉄工所	掛川市	相談にて決定	9/4～9/15	10日間	3	1
51	株式会社富士ホンダ	富士市	自動車ディーラーの仕事、営業の仕事を知る	9/5～9/12	5日間	2	2
52	ベルファーム株式会社	菊川市	トマトの大規模施設栽培	9/11～9/15	5日間	2	2
53	ポラ化成工業株式会社 袋井工場	袋井市	製品の品質検査（受入～出荷）	9/4～9/8	5日間	1	1
54	牧之原市役所	牧之原市	市役所業務、相談にて決定	8/8～8/16 他	5日間	5	3
55	松本印刷株式会社	榛原郡吉田町	印刷業界に興味のある方、いろんな職種を経験したい方申し込んでください	9/4～9/8	5日間	1	1
56	ユニインフォメーション株式会社	掛川市	ソフトウェア開発プロセス	9/4～9/15	10日間	3	1
57	ユニ・チャームプロダクツ株式会社	掛川市	商品を通じて工程の理解と品質の重要性を五感を通じて理解する また各工程において機工を自分なりに解釈することで思考力を鍛えていく	8/28～9/1	5日間	3	2
58	株式会社 Link・ambition	静岡市葵区	採用の現場を肌で感じるキャリアコンサルタントのアシスタント業務	9/4～9/8	5日間	2	1
59	株式会社レオパレス 21	浜松市中区	店舗接客を通して接客スキルや業務体験する事によりマーケティング理論を実践で生かすための経験を積む	9/4～9/8	5日間	2	1
60	株式会社ロジック	浜松市中区	エンジニアの仕事とは.	9/6～9/12	5日間	2	1
61	株式会社ワイエムジー	豊橋市	産業用搬送装置の機械組立・調整作業の研修	9/4～9/8	5日間	2	1
62	株式会社ワイケーデザインリンク	島田市	自動車メータのベンチマーク	8/28～9/1	5日間	2	2

表2 実習学生の学年・学科別人数

学科	学年		大学 院	計
	2	3		
機械工学科	0	29	0	29
電気電子工学科	2	17	0	19
物質生命科学科	1	22	0	23
コンピュータシステム学科	0	19	0	19
情報デザイン学科	0	12	0	12
計	3	99	0	102

表3 実習企業地域別内訳

地区	事業所 数	地区	事業所 数	地区	事業所 数
浜松市	17	富士宮市	1	吉田町	2
静岡市	8	牧之原市	2	愛知県	4
掛川市	6	湖西市	1		
袋井市	4	菊川市	4		
磐田市	4	藤枝市	2		
島田市	2	沼津市	1		
焼津市	1	森町	1		

表4 インターンシップ事前・事後研修会、報告会 出席者状況

学科	第1回	第2回	第3回	報告会
機械工学科	62	45	33	28
電気電子工学科	60	30	24	18
物質生命科学科	51	36	23	22
コンピュータシステム学科	40	26	18	19
情報デザイン学科	32	16	13	12
計	245	153	111	99

景気概況的には平成29年度は昨年に比べて大きな変化は見られなかったが、受入れ企業数、受入れ可能募集人数ともに昨年よりも若干の低下を示した。これは既に述べたように、より質の高いインターンシップ事業へと発展させるため、企業のインターンシップ受け入れ先としての適性を慎重に判断し、より学生の就職活動に役立つ実習先に絞り込んでいった結果であるとも考えられる。しかしながら、本学のインターンシップ制度への地元企業の理解が広まってきており、依頼企業の選択に関しては、事務局職員の多大なる努力のもと行われている。

#### 4. 参加学生募集と派遣企業の決定

4月の履修ガイダンスなどを利用し、全学学生に対して事前研修およびインターンシップ実習への参加要請を行った。その際、報告書の提出と報告会および事後研修全てに参加しなくては単位の取得ができないことを告知した。その後、インターンシップ参加希望者には4月18日の第1回の事前研修をはじめとして、全3回の事前研修を実施した。参加希望学生と派遣企業の決定にあたっては、受入企業側から提示された「実習テーマ」を基に、学生が実習内容をよく検討した上で希望企業を選定し、第5希望までを調査して受付を行った。希望学生が実習定員を上回った企業については、学生の意欲や専門分野と実習内容の関連等を考慮して選考を行った。また、学生の通勤の可能性についても検討し、特に通勤の時間がかかりそうな学生については個別に確認を行い、派遣学生を決定した。このように、極力学生の希望が優先されるよう配慮し、62社(昨年度は78社)に102名(同136名)の実習生を派遣することができた。実習生を派遣した企業ごとの実習期間、派遣実習生の人数などの一覧を表1に示す。また、表2および表3に学年別および学科別の実習生数の内訳および受入企業の地域別内訳を示す。

#### 5. 事前教育について

前述したように、4月18日から3回にわたり事前研修

会を開催し、インターンシップ実習の参加に向けた、必要事項や心構えなどの基本的な内容を説明した。第1回事前研修は、245名(昨年度は231名)の参加があり、300講義室での開催となった。第1回事前研修の内容は、インターンシップの概要とインターンシップに参加する上での考え方や心構え、履修手続き等について説明を行った。また、近年採用に際して特に重視されている社会人基礎力について改めて紹介し、この力を養うためにインターンシップを役立てることができていることを強調して、動機付けを行った。第2回事前研修では、先輩による体験報告、および実習先決定報告書や履歴書等の作成についての説明を行った。第3回事前研修では、実習に出向くにあたっての諸注意事項、報告書類等提出物の説明を行った。以上3回の事前研修によって、学生の動機を十分に高めるとともに、ビジネスマナーの重要性に関する理解の徹底をはかった。

近年は、初年次からキャリア支援教育がカリキュラムに組み込まれ、十分なキャリア教育が行われているため、昨年同様事前研修は3回とした。3回にわたる事前研修によって目的意識を明確に持たせた後に学生を実習先に送ることができたと考える。よって、事前研修の回数に関しては3回で必要十分であると考え、事前研修への参加者数を表4に示す。各事前研修はビデオに収録し、事前研修当日に実験・実習等の理由により参加できなかった学生も、後日DVDを見て内容に関するレポートを提出することにより、事前研修の補講を受けることができるよう配慮した。第1回事前研修参加者245名(昨年度は231名)の内、102名(昨年度は136名)が企業実習を行うこととなった。第1回事前研修参加者中の実習参加率は41.6%(昨年度は58.9%)となり、第1回事前研修参加者は昨年度と比べて40名以上増加したものの、実習参加率は昨年度から約17%、参加人数は昨年度から34名減少した。しかしながら、ここ5年は概ね100名を超える参加者を得ており、一定数の実習学生は確保しているといえる。加えて、第1回事前研修参加者が多かったに

も関わらず、実習参加者数および参加率が減少したことについては、単位取得が主目的である学生や、目的意識が低い何となく事前研修を受講した学生が脱落することによって、最終的に意欲のある学生が実習に参加したとみることができる。これは、インターンシップの参加者の数だけを追い求めるのではなく、質を向上させる面においては効果があったといえる一方、途中で脱落した目的意識の低い学生のケアもキャリア形成教育を通じて行うことが必要であると考えられる。

**6. 受入企業数と参加学生数の推移**

インターンシップの実習を行うにあたって、まず本学と実習生受入企業との間で“覚え書き”を作成した。これは双方の義務や責任を明らかにするとともに、万一の場合に備えて、実習生の受入に関して大学および企業の双方が遵守すべき事項を確認するためであり、双方が署名捺印した。

また学生は実習に先立って、参加申込書の提出時に助言教員の承認をうけることになっている。これは本学教員への連絡だけでなく、学生が自から参加の意思を示すことで、キャリア教育への参加の機会を増やすためである。インターンシップ実習は、8月4日から9月21

日までの本学の夏期休業期間中に各企業において行われ、滞り無く終了することができた。各事業所における実習期間中は、インターンシップに対する協力の御礼と学生の実習状況の視察を目的として、受入れ企業に担当教員が出向き、実習受入担当者と面談を行った。

本年度に各受入企業等において実施されたインターンシップの実習テーマについて分野別に分類したものを表5に示す。また、本学でインターンシップを実施した10年間の受入企業数、実際に実習を実施した企業の数、募集学生数、参加学生数、単位取得学生数の変化を図1に示す。今年度は受入れ事業所数は昨年度と同等であったものの、実施事業所数・募集実習生数・参加学生数は昨年より10%強減少した。これらは大きく減少しているものの、平成26,27年度の実施時と同水準であり、本来の数値に落ち着いたとみることができる。そのため、今後は短期的な参加学生数の増減に振り回されることなく、参加学生全体の質を向上させる方向性で行っていくことが必要といえる。10年間の参加学生の累計は937名となった。参加学生の学科別内訳を図2に示す。本年度の特徴は、機械工学科以外の学生の参加人数が減少しており、特に情報デザイン学科の減少が顕著であった。

表5 インターンシップ実習テーマの分野別分類

<p><b>【機械設計・開発などの分野】</b> 3DCADによる設計、産業用機械器具の設計・製作・メンテナンス、機械制御装置の設計・試作・販売、試作機の性能確認、自動化・省力化装置及び各種検査装置等の設計・製作、物流改善機器・福祉介護機器・プラスチック製品・自動車内装部品の開発・生産から販売、輸送用機器部品製造と光技術応用製品の開発・製造・販売。</p> <p><b>【生産・機械加工・試作・もの作りなどの分野】</b> 自動車・オートバイ用クラッチ・製造、物づくりの基本となる金型作りを最新の設備と職人の技と若手技術者が一体となった物づくり、自動車・オートバイ・農業機械等の精密機能部品製造、鋳鉄鋳物製造(プレス金型用、工作機械・産業機械用鋳物製造)、自動車輸送用機器部品製造販売、二輪用マフラー製造、各種プラスチック生計加工品の製造、二輪車・四輪車・汎用機械用エンジン部品及び車体部品の製造。</p> <p><b>【検査・測定・実験などの分野】</b> 空気調和設備(温度・湿度・空気清浄度などの室内環境の調整)、電気・電子・機械・情報通信のシステム機器と部品取扱い、木工用塗料の検査および塗装、化粧製品の品質検査</p> <p><b>【電気・電子関係の開発・実験などの分野】</b> プリント基板、パターン設計、マイコンボードを使用した音響機器開発、車載電装品・ホームエレクトロニクス・情報通信機器・制御機器等の製造・販売、自動車用コネクタの開発・生産、生産工場の設備(自動制御装置)の設計・製作・施行、輸送機器などの電装部品の開発・製造・販売、電気・通信機器や放送用機器などの多様な製品のLSI設計ソフトウェアの開発・ハードウェアECO製品の設計開発・製造、配電盤・制御盤の設計・製造精</p>	<p>密自動車部品・精密家電部品の製造・計測器・ロボットシステムの開発・製作、電気設備工事の施工管理。</p> <p><b>【物質科学関係の開発・実験などの分野】</b> 発酵技術を駆使した医薬中間体・原薬の製造、農業(モモ、ブドウ、キウイ)・ジャム製造販売・農業教育、化粧品製造・研究から生産まで一貫した体制での作り、CMO企業の仕事、トマトの大規模施設栽培</p> <p><b>【情報関係などの分野】</b> ウェブサイトの構築と運営・ICTソリューションの提供・インターネットを利用したメディア事業・ウェブシステムの研究開発及び提供・インターネット通販事業、コンテンツ(映像系・Web系)制作・ITシステム構築、物流・商流・航空など幅広いシステム開発やデータセンター・ネットワークサービス、客様にトータルソリューションを提供するシステムインテグレータ、携帯電話無線基地局の保守点検、エリア品質保証調査</p> <p><b>【企業経営・管理などの分野】</b> 山と川に囲まれた自然の中でスポーツや工芸体験ができる観光施設の接客サービス、金融業、職場体験・グループワーク、スーパーマーケットにおける業務、ビルマンション総合管理、自動車の買取・販売、ホテルにおける業務、農産物を生産から販売する地域資源プロデュース業務、自動車ディーラー、ホテルフロント接客業務</p> <p><b>【自治体・団体活動などの分野】</b> 地方行政事務、地方公共団体事務、公共文化施設における業務、信用金庫業務、空港業務。</p>
---	---

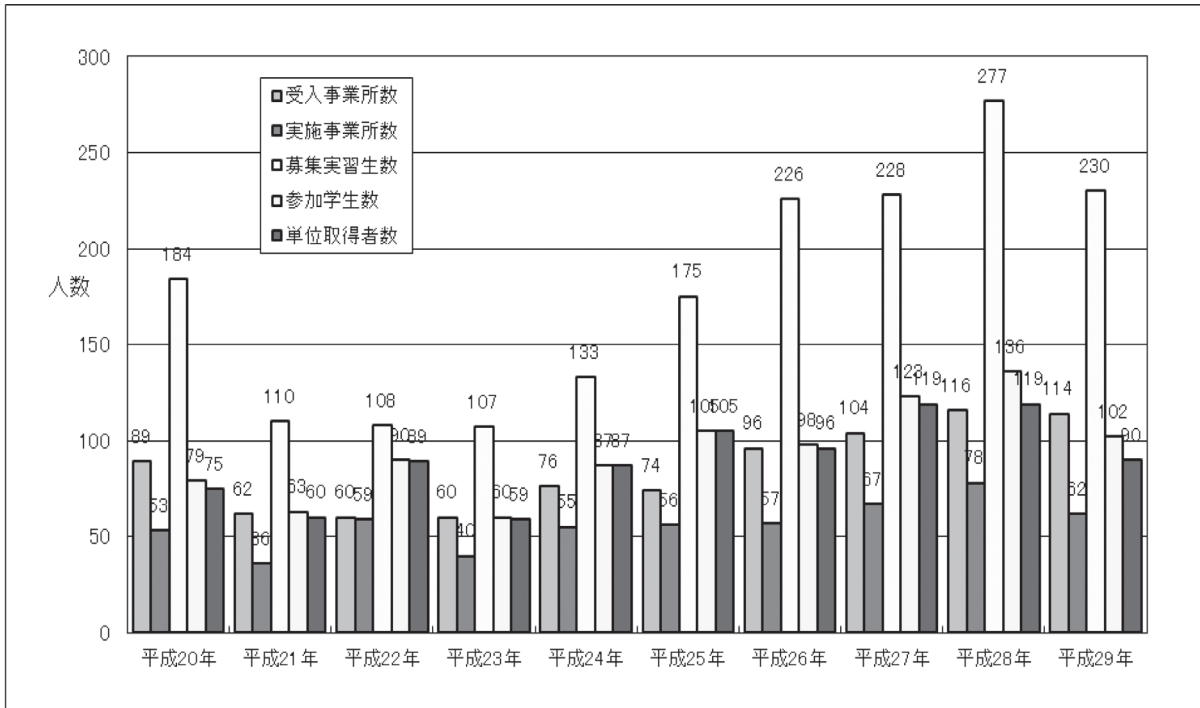


図1 受入企業等の数および参加学生数 (10年間の変化)

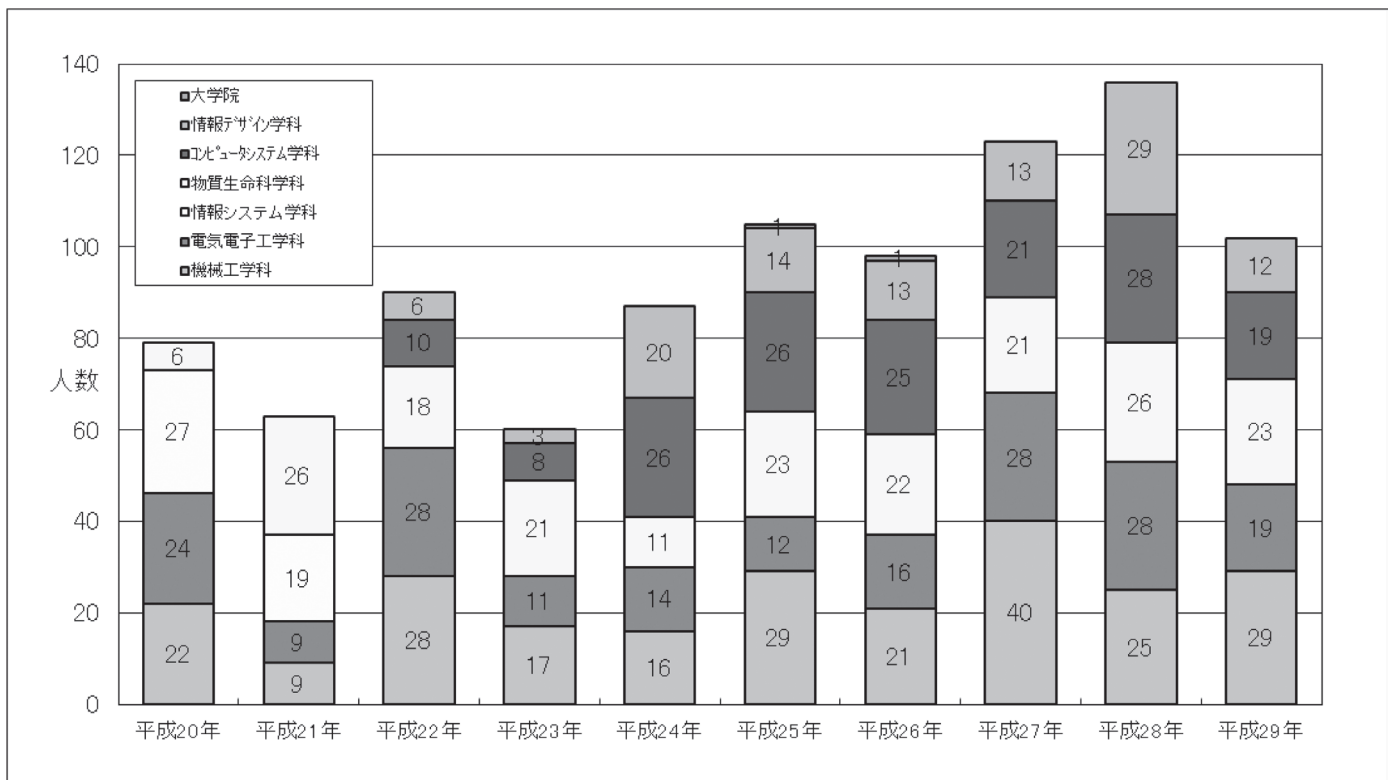


図2 参加学生数の内訳 (10年間の変化)

7. インターンシップで学生は何を得たか？

以下では、学生の実習報告に基づいて、実習によって得られた成果、実習を行った感想、実習に関する反省などについてまとめた結果を報告する。

7.1 実習内容

学生が実際に行った業務内容の詳細を事項別にまとめ、よく行われていた主要な業務内容を図3に示す。1位は

「製作、組立、加工」の24.5%、2位は「営業、接客、販売」の20.6%であった。前者は昨年度ほぼ同じで0.9ポイント減、後者は昨年度より4.8ポイント減であった。3位「CAD、画面設計、画像処理」と4位「ソフトウェア開発、HP作成」は昨年度と同程度であった。一方、「実験、測定、試験、分析」は5.0%で、昨年度の2.2%からはやや回復傾向にある。

7.2 実習によって得られた成果

「実習の成果」についてまとめたものが図4である。1位の「企業や職場の雰囲気がわかった」は27.5%で昨年度から0.6ポイント減、2位の「企業の現場を見ることができた」は21.9%で昨年度から4.2ポイント増加している。他の項目は昨年度と大きな傾向の違いは見られない。1位の「企業や職場の雰囲気がわかった」と2位の「企業の現場を見ることができた」を合わせると過半数を超えており、職場、現場のイメージを掴むのに役立っている様子が伺われる。

7.3 実習に関する感想

「実習に関する感想」についてまとめたものが図5である。1位の「貴重な体験ができた」は27.5%で昨年度から1.6ポイント増加、2位の「経験を生かして自分の進路を決めたい」は17.8%で昨年度から2.6ポイント増加であった。今回も経験を生かし今後につなげる目的は達成されたと考えられる。3位の「実習担当者の助言がためになった」は14.8%であり、昨年一昨年とほぼ同程度でインターンシップ先の配慮が垣間見える。他の項目は昨年度以前と大きな違いは見受けられないが、「仕事の楽しさがわかった」2.6%、「問題点の解決が面白かった」2.6%と低迷しており、責任や大変さを感じる一方、仕事の楽しさややりがいを感じるに至っていないと考えられる。

インターンシップは、現実の厳しさを知り、自分の進路を決めるためのトリガを与える貴重な機会を提供しており、重要な実習の一つであると思われる。今後も、多くの

学生をインターンシップに参加させる方策を検討していく必要がある。一方で仕事の楽しさ、やりがいを感じるに至っていない点が懸念され、問題解決型、プロジェクト型の内容を増やしてインターンシップ期間内に達成感を感じられるような取り組みを検討する必要がある。

7.4 実習に関する反省

実習に関する反省として記載された事項を整理したものを図6に示す。1位から3位までの「うまく話や説明ができなかった」、「基本的、応用的な知識が足りなかった」、「もっと質問すべきだった」は、昨年度とほぼ同率であった。本学学生のコミュニケーション能力や学力不足が感じられる。特に「うまく話や説明ができなかった」、「もっと質問すべきだった」という点は常日頃からのトレーニングが重要であるので、アクティブラーニング型の授業でのトレーニングやキャリア関連科目での重点的なトレーニングが必要と考えられる。

また、「基本的、応用的な知識が足りなかった」という点に関しては、基礎学力のベースアップは当然のことながら、事前準備としてインターンシップ先の業種、分野に関する予習、復習をより推進する施策が必要であると感ぜられる。

4位の「集中力が途切れてしまった」は、昨年度の13.4%から14.4%とやや増加となった。1位から4位までは、順位に多少変化があるものの、一昨年度、昨年度と本質的には同様であると言える。

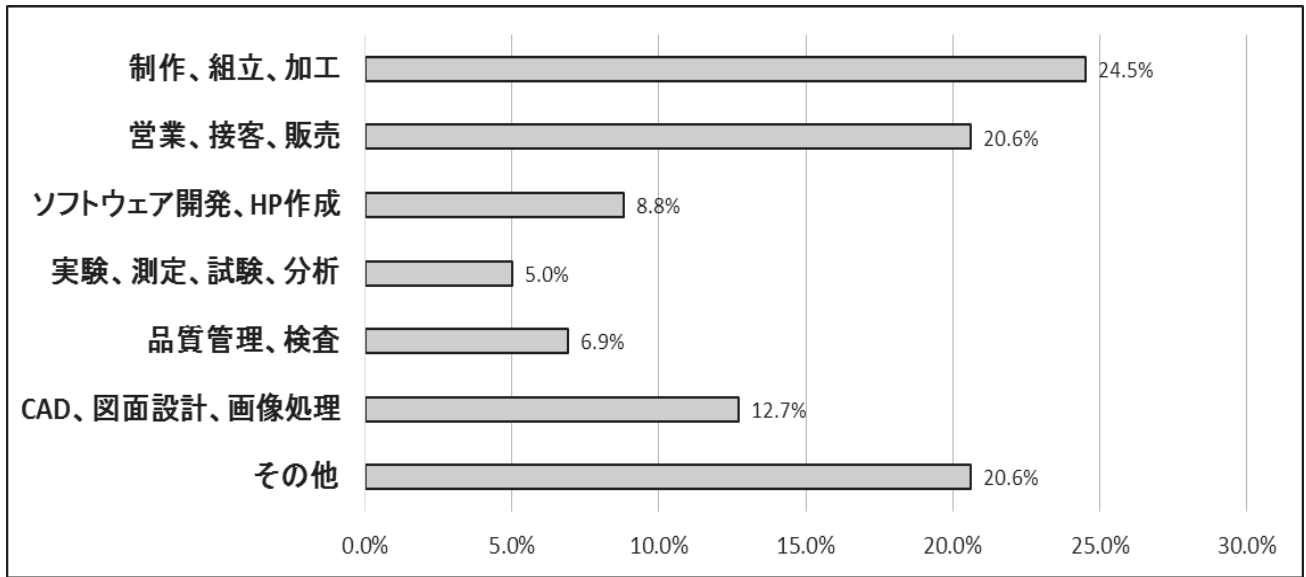


図3 実習内容の使用際

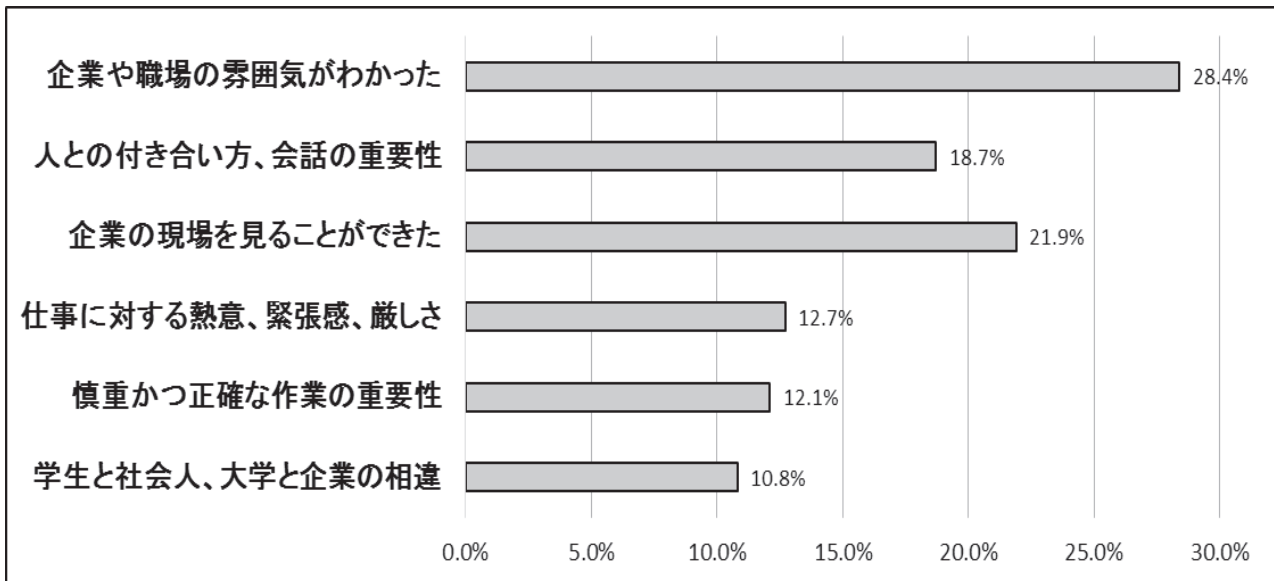


図4 実習によって得られた成果

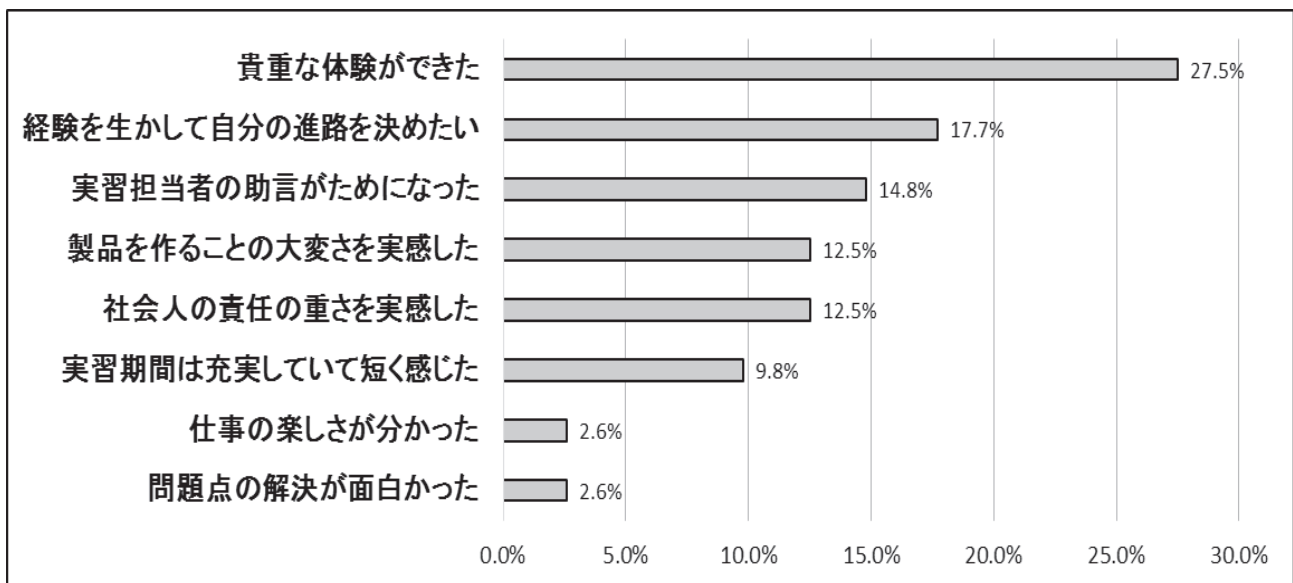


図5 実習に関する感想



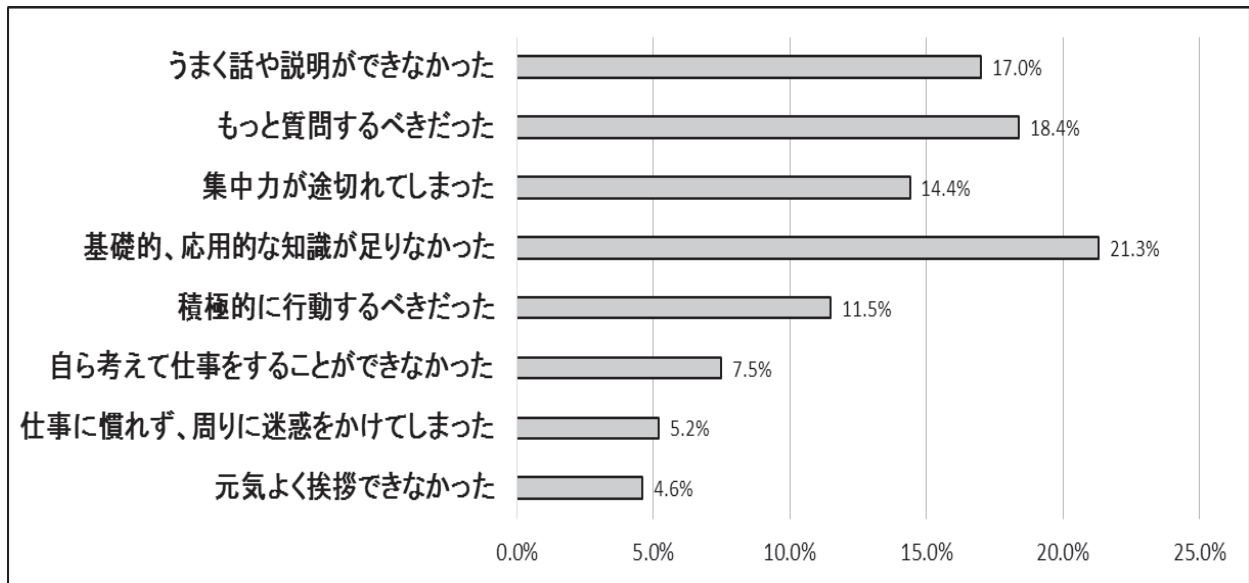


図 6 実習に関する反省

表 6 インターンシップ実習生に対する個人別評価 (5段階評価, 回答数 103)

評価項目	評点					平均点
	大変良い	やや良い	普通	やや劣る	劣る	
	5	4	3	2	1	
勤務状況(欠勤、遅刻、早退などの状況)はいかがでしたか?	79 76.7%	18 17.5%	5 4.9%	1 1.0%	0 0.0%	4.6
勤務態度(言葉遣い、挨拶、返事などは)いかがでしたか?	57 55.3%	30 29.1%	15 14.6%	1 1.0%	0 0.0%	4.1
実習内容はよく理解できていましたか?	46 44.7%	43 41.7%	14 13.6%	0 0.0%	0 0.0%	4.1
仕事に対し、よく実行・行動・努力していましたか?	53 51.5%	39 37.9%	11 10.7%	0 0.0%	0 0.0%	4.2
仕事は正確で良い結果を出していましたか?	40 38.8%	46 44.7%	17 16.5%	0 0.0%	0 0.0%	3.9
創意工夫の姿勢は見られましたか?	30 29.1%	47 45.6%	23 22.3%	3 2.9%	0 0.0%	3.8
仕事に対する積極性はいかがでしたか?	39 37.9%	47 45.6%	14 13.6%	3 2.9%	0 0.0%	4.0
責任感を持てていましたか?	50 48.5%	38 36.9%	14 13.6%	1 1.0%	0 0.0%	4.1
協調性はいかがでしたか?	55 53.4%	29 28.2%	15 14.6%	4 3.9%	0 0.0%	4.0
全体評価	52 50.5%	43 41.7%	7 6.8%	1 1.0%	0 0.0%	4.2

8. インターンシップ実習の評価 (受入企業, 参加学生, 訪問教員)

インターンシップ終了後, 実施状況をできるだけ詳しく調査して問題点を把握するために, 昨年度と同様に受入企業, 参加学生および訪問教員に対してアンケート調査を実施した. それらの結果について以下に述べる.

8.1 受入企業による実習生の評価

単位認定のため, 学生の実習状況の評価を行う必要がある. そのため企業の実習担当者に, 個々の実習生の実習状況に関する評価を依頼した. 評価は 10 項目について各 5 段階で評価するものとした. その結果(回答数 103)を表 6

に示した。各評価項目の平均点は全て昨年度と同じ値であった。

各評価項目において、「大変良い」の評価を受けた学生の割合は、全ての項目が昨年度を上回っていた（昨年度の“大変良い”の評価の割合は、「勤務状況」：70.6%、「勤務態度」：40.4%、「実習内容理解」：33.1%、「実行・行動・努力」：37.5%、「正確さ」：30.1%、「創意工夫」：22.1%、「積極性」：30.9%、「責任感」：36.8%、「協調性」：33.1%、「全体評価」：41.2%）。昨年度と比較して、特に「協調性」や「勤務態度」、「実行・行動・努力」に対する評価が、今年度は大幅に上昇した。

一方で、「やや劣る」の評価を受けた学生の比率は、「積極性」と「協調性」で若干昨年度を上回った以外、全ての項目で昨年度を下回っていた（昨年度の“やや劣る”の評価の割合は、「勤務状況」：1.5%、「勤務態度」：5.1%、「実習理解」：0.0%、「実行・行動・努力」：1.5%、「正確さ」：1.5%、「創意工夫」：3.7%、「積極性」：1.5%、「責任感」：2.9%、「協調性」：2.2%、「全体評価」：2.2%）。特に、「勤務態度」においては昨年度よりも、4.1%下回っており、研修を受ける最低限のマナーに欠ける学生の割合がやや減少したものと思われる。

表7に、インターシップ実習生に対する個人別評価の所見として述べられたものを示した。多くの学生については良い評価されていた。一方で昨年度と同様に「挨拶ができない」、「積極性に欠ける」、「コミュニケーションをとってほしい」等の問題点を指摘する意見もあった。学生の性格によるものと思われるが、これを機会に社会人としてのマナーや学生と社会人の違い等を本人が考え、今後改める様に努力して欲しいものである。

## 8.2 受入企業によるインターシップの評価

受入企業担当者によるインターシップに関する評価結果を図7に示した。「実習内容」「実習態度」「実習全般」いずれの項目も、96%以上の回答が「適切」あるいは「ほぼ適切」という結果で昨年度とほぼ同じ値であり、「不適切」は今年度も昨年度同様全項目で0.0%であった。

昨年度と今年度の結果と比較すると、「実習内容」において「適切」の割合が昨年度の69.2%から40.4%と大幅に減少し、「ほぼ適切」が昨年度の26.2%から56.1%と大幅に増加した。しかしながら、「やや不適切」の割合は昨年度の4.6%から3.5%と減少しており、事前研修の更なる充実や、インターシップへの参加に相応しくない学生の受け入れを見合わせる等の措置も引き続き実施されているため特に憂慮すべき問題ではないと考えられる。

## 8.3 学生によるインターシップの評価

参加学生達自身によるインターシップに対する評価結果を図8に示した。「実習内容」、「実習環境」、「指導内容」のいずれの項目も、「適切」および「ほぼ適切」の総計で評価した場合、昨年度より若干高い99%以上の満足度となっている。「実習内容」および「実習環境」に関して、「やや不適切」の割合が昨年度は、それぞれ3.7%、1.5%であったのに対して本年度はともに0%と減少していた。例年11月に学内で開催される参加学生によるインターシップ報告会では、今年度も短い期間のインターシッ

プ期間でもさまざまな体験を得たことが報告され、また、そのことにより学生が成長した様子が見られたのは喜ばしいことであった。インターシップでの体験が、学生の今後の就職活動をはじめとした人生に役に立つことを願ってやまない。

## 8.4 実習先訪問担当教員の報告

平成29年8月18日～9月14日の期間、本学教員が47箇所の実習先企業・事業体を訪問し、インターシップ先への御礼の挨拶と本学学生の実習状況を確認した。具体的には、各企業のインターシップ学生の受け入れ担当者または企業側代表者、および可能な場合には実習学生本人と面談し、仕事の内容、状況、学生の対応などの観察・聞き取りを行った。教員にはその結果をアンケートの形で報告することが求められており、インターシップ先での学生の実習への取り組み、意欲、そして、インターシップ先企業の実習内容、その他についての回答が寄せられた。その結果を図9から図11に示す。

図9は、学生の実習への取り組みに対する教員の評価結果を示している。教員は96.2%の学生の取り組み（非常に真面目79.2%+やや真面目である17.0%）を真面目であると評価していた。この割合は、昨年度の割合とほぼ同じであった。

図10は、実習生の意欲に対する教員の評価結果を示している。教員は92.5%の学生が意欲的に取り組んでいる（非常に意欲的71.7%+やや意欲的20.8%）と評価していた。この割合は、昨年度の割合（非常に意欲的63.6%+やや意欲的31.8%=95.4%）よりやや下回っているが、「非常に意欲的」は増加しているため、問題視する必要はないと考えられる。

図9と図10の結果を総合すると、インターシップに参加した今年度の学生の実習態度は、昨年度の学生と同程度と教員は評価したといえる。

図11は、インターシップ先企業の実習内容に関して、訪問教員が4つの問に対して回答した結果を示している。4つの問とは、(a)実習内容は教育的であったか、(b)実習プログラムは充実していたか、(c)指導状況は良好か、(d)指導困難な様子はなかったか、である。図11に見られるように、全ての項目において、「そう思う」、「ややそう思う」の評価合計が94.3%～98.1%の高い値を示している。この値は昨年度(84.6%～90.9%)よりも若干上昇が認められた。この結果から、実習内容や、企業の指導者と学生の関係は、第三者である教員から見ても、概ねポジティブなものであったといえる。

なお、「(d)指導困難な様子はなかったか」という項目に関しては昨年度の実施報告において、曖昧さが認められるため表現修正が必要との指摘がなされていた。今年度はこの質問項目に対して「そう思わない」との回答者はいなかったが、この質問は「(c)指導状況は良好か」に含まれるため削除を検討してもよいのではと考えられる。

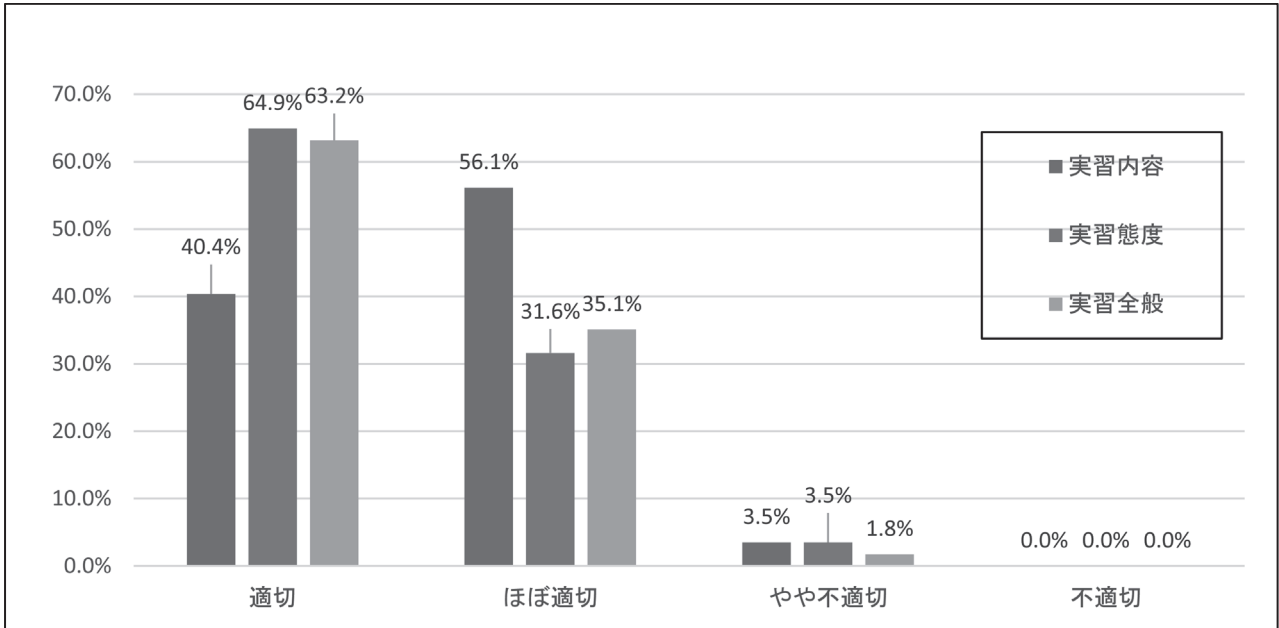


図7 受入企業担当者によるインターンシップへの評価

表7 インターンシップ実習生に対する個人別評価の所見

＜好評の所見＞
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 短い期間ではありましたが、意欲的に本市の業務に取り組んでくれたと思います。</li> <li>・ 特に本市では、業務スキルよりも基本行動9か条として示されているとおり、挨拶や身だしなみ、業務に対する取組み姿勢など、意識すれば誰でも出来ることを当たり前に行うことが強く求められています。</li> <li>・ 実習中の挨拶や見出しなみなど、基本的なことは問題なく出来ていたと思います。特に、挨拶については課内の入出者に対して立って挨拶する姿勢は、好感を持つことが出来ました。ぜひ、今後も継続していただきたいと思っています。</li> <li>・ パソコン作業が得意ということもあり、アンケートの入力・分析では指示する前に自分なりの分析が出来ていました。市の業務では、ワード・エクセルは必須となり、特にエクセルは使いこなせば強力な武器になるので、ぜひ引き続き知識を深めてください。今度は、磐田市の正規職員として一緒に働ける日を楽しみにしています。5日間、お疲れ様でした。"</li> <li>・ 真面目に研修に取り組んでおり、自主的に勉強する良い学生でした。指導する私たちも刺激を受け、良い経験となりました。最終日に挨拶する機会を逸しましたが、彼の今後に期待しています。</li> <li>・ 学科が全く違う業種の体験だったので、戸惑うところは多かった様に思えた。しかし体験の中で面白さを見出し作業が出来たようだった。</li> <li>・ 素直に言われたことをこなしていた。欲を言えば、折角のプロの現場なので、疑問に思ったことや教えて欲しい事などを、もっと出せると良い。</li> <li>・ "自身で目標を掲げて作業をしており、積極的な姿が見受けられました。</li> <li>・ 5日間、有り難うございました。"</li> <li>・ "一つ一つに興味・感心を持ち、他の作業者とも積極的にコミュニケーションを取って実習しておりました。</li> <li>・ 5日間、有り難うございました。"</li> <li>・ "初めてのインターンシップで緊張されておりましたが、弊社の業務特にエリア品質調査において、他社を含めた電波測定に興味を持たれ、積極的に取り組んでいらっしゃいました。</li> <li>・ 全体的に大人しい感じがしましたが、言うべき時や確認すべき時はしっかりと発言もされており前向きな姿勢で取り組まれておりました。"</li> <li>・ 電波に関する専門用語が多く座学において戸惑いがありながらも、実習では積極的に質問、行動をされ真摯に向き合う姿勢が印象的でした。静岡理工科大学様OB社員が出席した、先輩社員との座談会においても不明点等、積極的に意見をされておりました。優しさがにじみ出ており好感が持てる学生さんでした。</li> <li>・ 製剤は異分野でしたので、少し理解するのに苦戦されていましたが、作業は丁寧に行っていました。医薬品の前知識が一番なかったと思いますが、それを補う実行力を感じました。素直な方との印象でしたので、本人のやる気や教え方によっては非常に高い成長の可能性を秘めていると思います。</li> <li>・ 弊社では実習最終日に 15 分程度の実験結果報告、プレゼンテーションを実施していただいております。大学でもまだ経験が少ないかと思いますが、弊社部課長、担当が聴講する中で報告内容、質疑対応含め上手にできた</li> </ul>

評価しております。4年次での研究室での経験を経て成長が期待できる素養を感じました。今後の学業面での成長を期待しております。

- 就業体験ではないため、そういった観点での評価はできませんが、受け入れ部署からの評価（取り組む姿勢や発言の内容など）は高かったです。
- 就業体験ではないため、そういった観点での評価はできませんが、非常にまじめに取り組んでくれたと思います。もう少し積極性が出ると尚良いと思います。
- どちらかといえば機械工学向きの実習内容となりましたが、積極的に業務に取り組んでいました。
- 初めての作業・業務でしたが、覚えがはやく優秀な学生です。
- 初めての作業・業務でしたが、覚えが早く優秀な学生です。
- "勤務時間中は業務に専念されており、責任感を持って業務のフォローをして頂いたので大変助かりました。
- 実習テーマの目的や内容をよく理解し、積極的に測定やデータまとめに取り組んでおりました。
- 実習初日はやや緊張されている様でしたが、日数を重ねる内に口数も多くなり、
- 業務内外関わらず笑顔で会話をしていました。
- 実習全体を通して、ルールを守り、積極的に作業をしていたと思います。
- また、測定データに対し論理的に結論を導き、まとめを行っていたと思います。"
- 接客場面では、どのような状況でも丁寧に対応をしていました。また、責任をもって、一つひとつ確認をしながら仕事を進めることができました。
- 接客では、お客様の目線に合わせて対応し、次に何が必要なのかよく気がつき、行動していました。体験の準備や片付けにおいても、状況に応じて自主的に動いてくれました。
- 一度に何組ものお客様に対応する場面でも、落ち着いて接客していました。また、仕事を覚えてからは、準備から接客、片付けまでの一連の流れを自分なりに工夫して、臨機応変に動いていました。
- 10日間という期間の中で、会社の事、就職活動の事、そして今後の自分の人生の事、様々なことに対して、積極的に学び、考えて、自分自身で答えを見つけることが出来るように成長してくれました。最終日には、実習の報告会を社員のの前で行っていただき、実習で学んだ事、成長したことを、改めてお互いに認識することが出来ました。非常に充実したインターンシップだったのではないかと思います。
- "3次元 CAD の講習と演習を行うことで、篠原さんに職業体験をしていただきました。
- 期間前半の講習では集中できていない場面も見受けられましたが、後半の実習に入ってから俄然やる気が出たようで、当社が期待する成果をしっかりと出してくれました。
- 今回のインターンシップで得られた経験と気付きを、今後の就職活動に生かしていただければ幸いです。"
- "グループワークでは、他の学生の意見を聞き纏めておりました。
- もう少し、積極性があっても良かったと思います。"
- 講義、グループワーク等、積極的に参加しておりました。
- 今から新聞やニュースに関心を持ち、世の中の動き等を学ぶ姿勢が大切です。
- 一週間、CATIA の操作やコマンドを説明してきましたが、メモをとる等の姿勢が出来ればより良かったと感じます。

#### <問題点の指摘があった所見>

- "やや仕事に対して積極性が弱い感じがします。研究者を目指しているという話しでしたのでもう少し積極的な興味を持ってインターンシップに取り組んでもらった方が良いと思います。
- 慣れない環境で緊張されたと思いますが、もう少し元気よくきはきと発言できると良かったです。
- 話しかけると人の好きは見えますが、挨拶・返事に元気がなかったように思います。話は集中して聞いてくれており、内容も理解してくれていると思えました。筆箱設計では、どう描けば良いか難しかったようです。短時間でイメージして描く事は難しい事ですが、何事にも積極的に、協調性を持ち自分の思考を出して行って欲しいと思います。
- 丁寧な言葉遣いではありますが、挨拶・返事に元気がなかったように思います。話は集中して聞いてくれており、内容も理解してくれていると思えました。筆箱設計では、創意工夫の姿勢は見られましたが、畏縮してしまっていたのか積極性、協調性が薄れてしまっていました。これから何事にも果敢に挑戦して行って欲しいと思います。
- 人の好きが見え、話しやすかったのですが、言葉遣いが少し気になりました。話は集中し聞いてくれており内容も十分理解してくれていると思えました。筆箱設計では、創意工夫の姿勢、積極性、協調性があるように思われました。これから何事にも果敢に挑戦して行って欲しいです。
- 元気が欲しい。静岡理工科大学を代表してインターンシップに参加しているという気持ちが必要。
- もっと自分らしさ、意思を表に出しても良いと思います。

## 9. 平成 29 年度インターンシップのまとめ

静岡理科大学では、平成 12 年度以降選択科目としてインターンシップを実施してきた。就職活動を開始する前の学生が企業や官公庁におけるインターンシップ体験を通じて、業務の専門性を体験し、一般常識と教養の重要性を認識するとともに、業務の現場でのコミュニケーションの大切さを自ら体験する機会を提供する役割を本インターンシップは担っている。

### 9.1 インターンシップ事前教育

インターンシップに参加する前の事前教育として、本年度も全 3 回の事前研修を実施し、インターンシップの概要や心構え、マナーについての教育を実施した。全学での事前研修への参加者は第 1 回目が 245 名、第 2 回目が 153 名、第 3 回目が 111 名であった。第 1 回目の事前研修における 2 年次の学生の割合は約 14.7%であり、昨年度の約 9.1%よりも増加した。この結果から、早期に就職活動に興味をもつ学生が増えていると考えられる。一方で、事前研修の回を重ねるにつれ、2 年次の参加者は減少し、第 2 回目は 7.8%、第 3 回目は 3.6%となった。昨年度の第 2 回目は 6.6%、第 3 回目は 5.2%という結果と比べると減少の傾向は一致している。本年度はインターンシップへの参加学生 102 名中の 3 名のみが 2 年次の学生であった。今後は、2 年次の学生のインターンシップへの興味をつなぎとめる仕組みが求められる。

### 9.2 インターンシップ受入れ企業数について

今年度のインターンシップについては、受入れ企業は計 114 社（昨年度 116 社）であった。募集学生数は 230 名（昨年度 277 名）であった。そのうち、102 名の学生がインターンシップに参加した（昨年度は 136 名）。昨年度に比べ、参加学生は大きく減少したが、受入れ企業数は昨年度と同程度であった。就職活動が売り手市場という現状を反映した結果である。実習先企業の大多数は静岡県西部・中部に所在するが、県外（愛知県）の企業も含まれる。インターンシップを通じて、静岡県内へ就職を希望する学生にとっては、県内で業務の体験が得られることは有利である。一方で、東京周辺への就職を望む学生にとっては、希望する業種のインターンシップが見つけれられない可能性は捨てられない。

### 9.3 インターンシップの評価

本学学生は業務の現場で挨拶ができ、素直でおとなしいが、業務へしっかりと取り組む姿勢が評価されており、素直で成長が見込まれる点で好評を得る者も見られた。インターンシップ実習生に対する個人別評価（表 6）によると、全体評価では、大変よい又は良いとの回答は全体の約 92%であり、実習生への評価は高い。本学では、1 年次からキャリア教育のための科目「キャリア開発講座 1」等を開講し、ビジネスマナーを含むキャリア教育に取り組んできたことがこのような評価を得る一因と考えられる。

一方で、受入れ企業の所見によると、業務についてより積極的に提案を行う主体性が望まれている。特に、業務においては一人で仕事を完結することは稀であり、多様な考えを持つ多数の同僚・上司・部下と連携をとりながら業務目標を達成することが求められる。したがって、今後の教育においては、PBL(Project Based Learning)やアクティブラーニングを取り入れたグループワークを活用することが望まれる。そして、グループによる協調作業によって、互いにアイデアを出し合って共有し、質疑応答や議論によって切磋琢磨し、一つの成果物を作り上げる体験ができる

ようにすることが必要である。主体性を育むことは、単一の科目を履修するだけでは不可能であるため、大学での教育活動をよりグループワークベースにシフトしていくことが求められる。

実習によって得られた成果についての学生からの回答（図 4）によると、職場での業務にまつわる人間関係や業務経験、職場での責任の大切さについて、大学の講義や演習では得られない体験が得られたものと推測できる。これは本インターンシップの意図と一致している。

一般的に、就職活動開始時に企業研究を行うにあたり、学生が自分自身でどのような職種に興味があるのかを見つめ直す必要が出てくる。インターンシップを経験しておくことで、自分が職場で仕事に就き、同僚や上司と共に業務を行っている姿をイメージしやすくなることが期待できる。実習に関する感想（図 5）では、インターンシップの経験が貴重であったとの意見が多い。更に、今後の進路へ経験を生かしたいとの前向きな意見も見られる。今回のインターンシップ経験は自己分析のきっかけとなった学生も多いと推察される。

実習に関する反省（図 6）では、基礎知識の不足と職場でのコミュニケーションの大切さを自覚する意見が得られた。この結果には、静かにインターンシップの業務に取り組みながらも、業務内容を完遂させたいというインターンシップ参加者の責任感が現れている。また、インターンシップ受入れ企業へ訪問した教員による回答（図 9 及び図 10）からは、実習生が意欲的で真摯に業務についていたとの結果が読み取れる。これは、インターンシップ希望者と受入れ企業のマッチングが適切に行われた結果である。

### 9.4 インターンシップ報告会

本年度も、昨年度と同様に 11 月 7 日にインターンシップ報告会を開催した。報告会では、機械工学科・電気電子工学科・物質生命科学科・コンピュータシステム学科・情報デザイン学科から各 1 名のインターンシップ参加者が、参加報告を行った。併せて、受入れ企業の担当者からも実施報告が行われた。インターンシップ報告会は企業・官公庁のインターンシップ担当者と大学及び学生の間で知識を共有し意見を交換する場としてなくてはならないものである。インターンシップを始めとする連携活動を通じて、企業と一緒に学生を育てる活動を継続する必要がある。

### 9.4 その他

最近では、短期間で実施するインターンシップも見られ、ワンデーインターンと呼ばれる、1 日で完結する形式のインターンシップも活発となってきている。従来型のインターンシップでは、期間の長さが原因で、遠隔地の企業での実施する際に、受入れ先の企業と実習する学生の双方について負担が大きい。実際に、現在の本学におけるインターンシップでは、受入れ企業のほとんどが県内企業となっている。今後は本学のインターンシップにおいても、ワンデーインターンへ参加を促すなど、インターンシップの捉え方自体を修正していく必要がある。特に、関東での就職を希望する学生には、期間の短いインターンシップは考慮に値する。本学が新幹線沿線地域に位置しているという強みを生かすことができるからである。

### 9.5 謝辞

インターンシップを実施するにあたり、多忙な業務の中、学生の受入れにご尽力いただいた各受入れ企業・官公庁の皆様へ感謝いたします。また、報告会でご講演いただきました皆様にも御礼申し上げます。

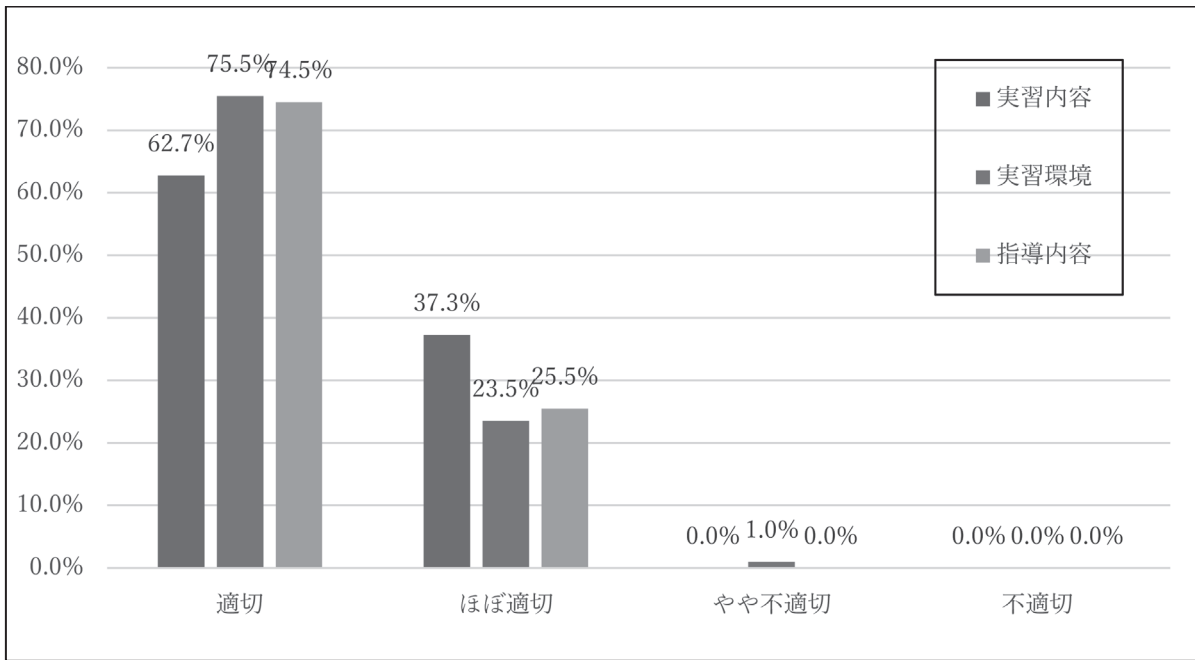


図8 参加学生による実習内容、環境、指導内容への満足度

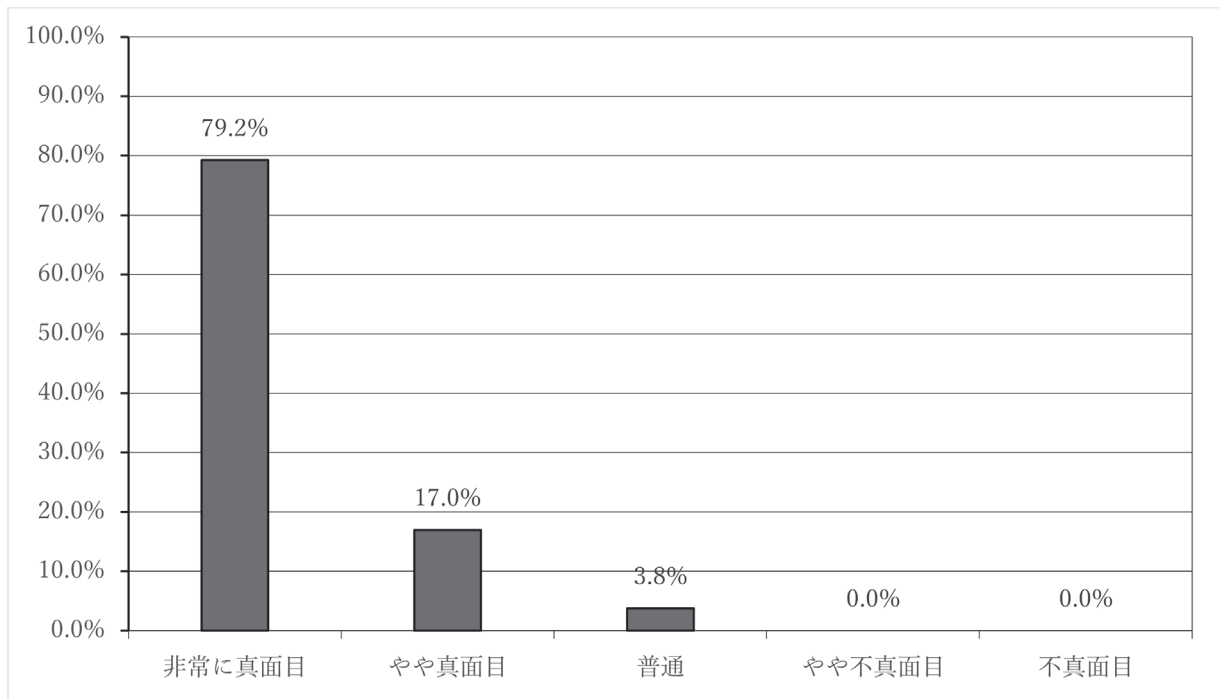


図9 実習学生の取り組みに対する訪問教員の評価

図 10 実習生の意欲に対する訪問教員の評価

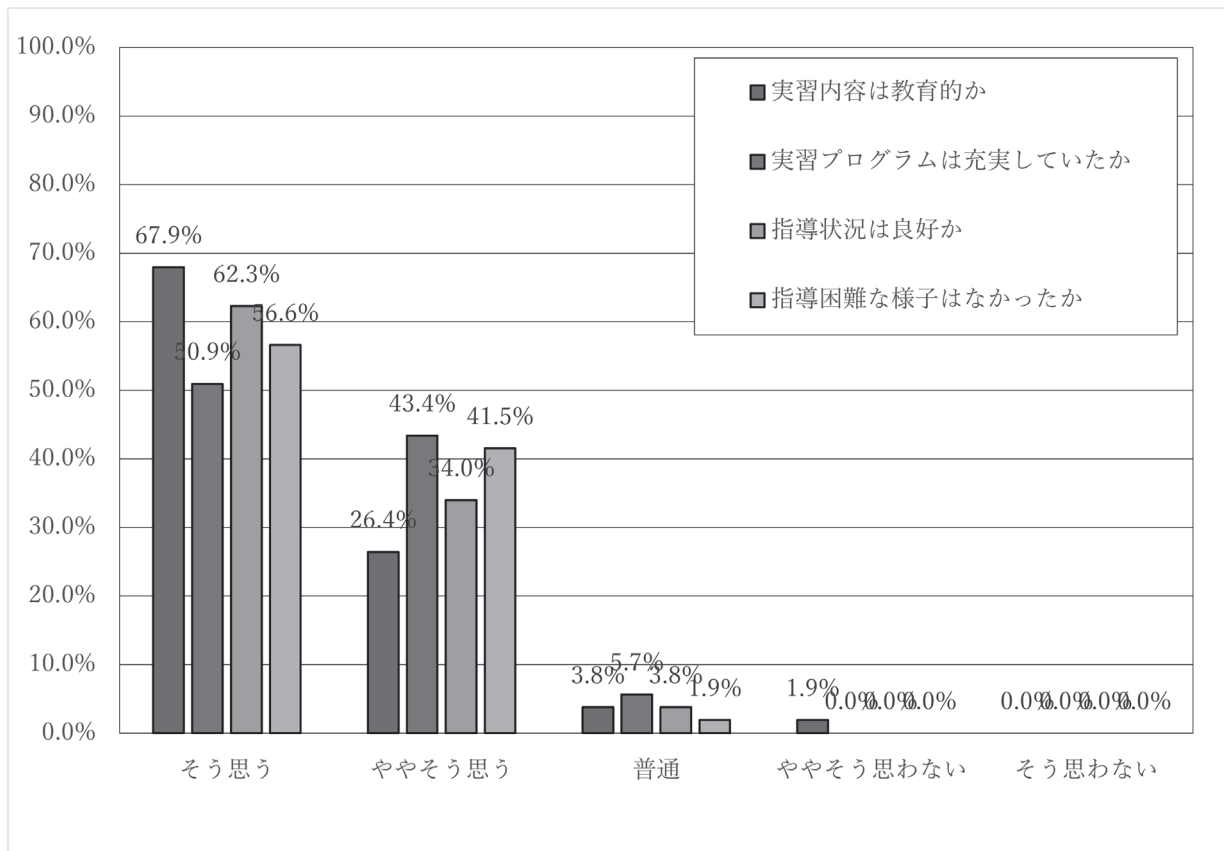
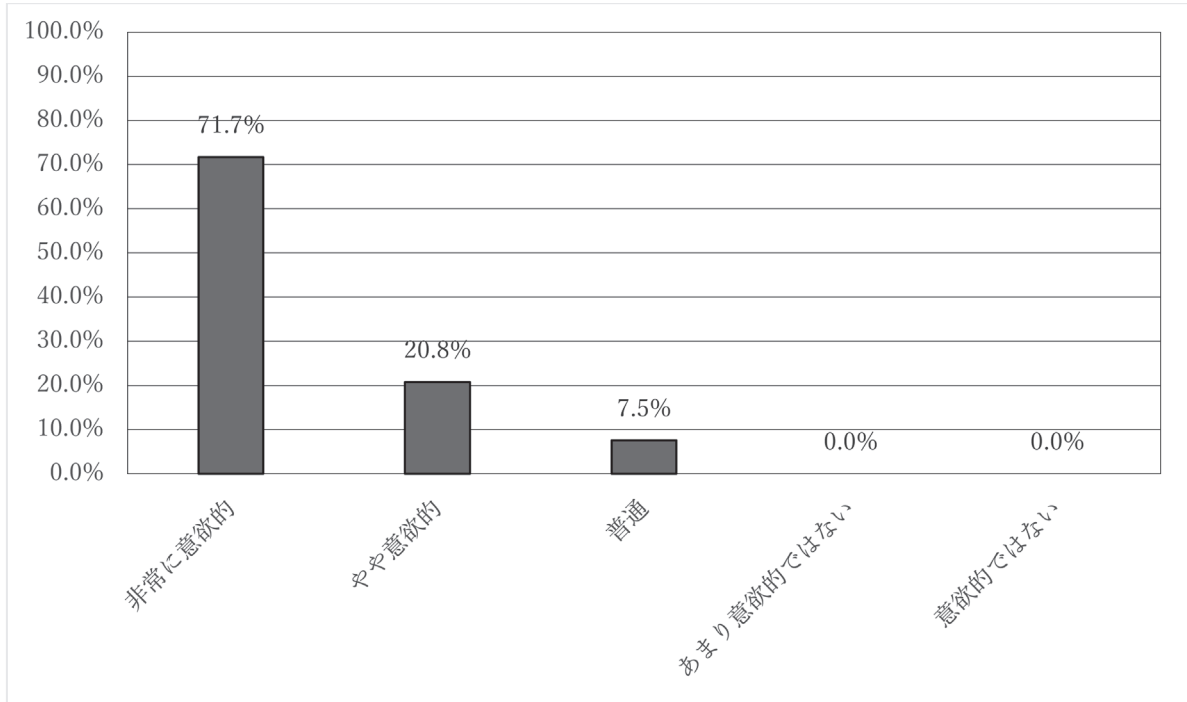


図 11 訪問教員の受入事業所への評価と要望

**参考文献**

- 1) 文部省編, インターンシップ・ガイドブック, インターンシップの円滑な導入と運用のために, 1998.
- 2) 丹羽昌平 他, インターンシップで学生は何を得たか?—平成14年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第11巻, 2003, 281-303.
- 3) 丹羽昌平 他, インターンシップ実施5年間のまとめとこれからの展望—平成15年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第12巻, 2004, 299-320.
- 4) 丹羽昌平 他, 平成16年度インターンシップ実施報告—インターンシップの教育効果の向上のために—, 静岡理工科大学紀要, 第13巻, 2005, 95-104.
- 5) 丹羽昌平 他, 地域社会との連携による実習体験教育, 工学教育, 第53巻第4号, 2005, 23-29.
- 6) 惣田昱夫 他, 平成17年度インターンシップ実施報告—事前教育の充実による教育効果の向上—, 静岡理工科大学紀要, 第14巻, 2006, 163-174.
- 7) 富田寿人 他, 平成18年度インターンシップ実施報告—キャリア教育メイン・プログラムを目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第15巻, 2007, 127-139.
- 8) 富田寿人 他, 平成19年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第16巻, 2008, 117-129.
- 9) 富田寿人 他, 平成20年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第17巻, 2009, 163-174.
- 10) 山庄司志朗 他, 平成21年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第18巻, 2010, 145-155.
- 11) 山庄司志朗 他, 平成22年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第20巻, 2012, 119-131.
- 12) 石田隆弘 他, 平成23年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第20巻, 2012, 107-118.
- 13) 石田隆弘 他, 平成24年度インターンシップ実施報告—貫したキャリア教育を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第21巻, 2013, 153-166.
- 14) 奥村哲 他, 平成25年度インターンシップ実施報告—より多くの学生のためのキャリア教育を目指して—静岡理工科大学紀要, 第22巻, 2014, 105-119.
- 15) 奥村哲 他, 平成26年度インターンシップ実施報告—より多くの学生のためのキャリア教育を目指して—静岡理工科大学紀要, 第23巻, 2015, 163-177.
- 16) 幸谷智紀 他, 平成27年度インターンシップ実施報告—質の高いキャリア教育を目指して—静岡理工科大学紀要, 第24巻, 2016, 110-125.
- 17) 幸谷智紀 他, 平成28年度インターンシップ実施報告—質の高いキャリア教育を目指して—静岡理工科大学紀要, 第24巻, 2017, 151-168.